

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和5年度技術情報第19号（バレイシヨの菌核病）について（送付）



バレイシヨの菌核病について、下記のとおり取りまとめましたので、周知及びご指導をよろしくお願いたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/kagoshima>）にも掲載しています。

令和5年度技術情報第19号

熊毛地域（西之表市）ではバレイシヨの菌核病が急激に増えています。今後の天候によっては被害の拡大が懸念されるため、すでに発生しているほ場では、薬剤散布や耕種的防除による蔓延防止に努めて下さい。また、未発生ほ場でも、予防に重点を置いた効果的な対策を実施して下さい。

- | | |
|--------------|--------|
| 1 対象病害虫 | 菌核病 |
| 2 対象作物 | バレイシヨ |
| 3 発生地域および発生量 | 熊毛地域 多 |

4 発生状況

- 1月の菌核病の発生ほ場率は50%と、平年（7%）より高く（図1）、過去10年では最も高かった（図2）。
- 向こう1か月の気象予報では、気温が高く、降水量が平年並みか多いと予報されており、今後も発病しやすい条件が続くと予想されるため、注意を要する。

5 防除上注意すべき事項

- 葉茎の折損があると感染しやすい。
- 多湿条件で発生しやすいので、天候や排水状況に注意する。
- 発病株は周辺株や次作の伝染源となるので、菌核を生じないうちにほ場外へ持ち出し処分する。
- 薬剤散布は予防に重点を置き、発病を確認し次第、早期防除を行う。
- 病原菌は地際部や枝分岐部付近から感染しやすいので、薬剤は対象部位へ十分かかる様に散布する。
- 同一の作用特性を有する薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う（RACコード参照）。
- 収穫終了後の残渣はほ場外に持ち出す等、適正に処分する。

6 参考データ

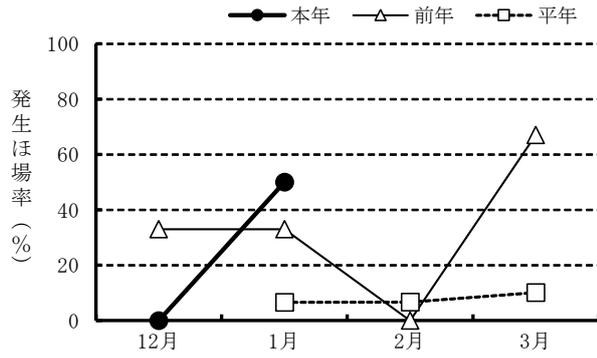


図1 菌核病の発生ほ場率 (熊毛地域)

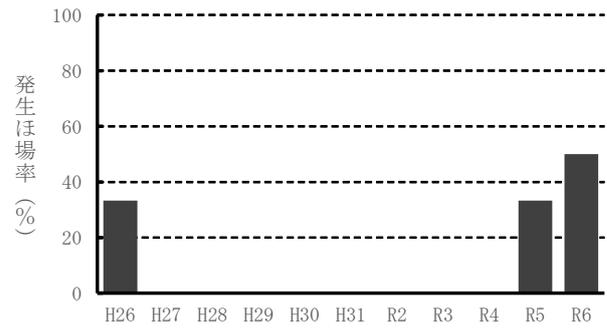


図2 過去10年間の1月の菌核病発生ほ場率 (熊毛地域)

表1 バレイシヨの菌核病の防除薬剤 (令和6年2月1日時点)

薬剤名	効果	FRAC	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
ロブラール水和剤	予防	2	1000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	4回以内
フロンサイドSC	予防	29	1000~2000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	4回以内
フロンサイド水和剤	予防	29	1000~2000倍	100~300L/10a	収穫14日前まで	4回以内
スミレックス水和剤	予防・治療	2	1000~1500倍	100~300L/10a	収穫21日前まで	4回以内

注) 農薬の使用にあたっては、必ずラベルの表示を確認し、使用基準を遵守してください。